

人吉盆地の形成と肥薩火山群

日本海拡大に伴う西南日本弧の時計回り回転

Murata, 1987

当日は書物に掲載された図を提示しましたが、著作権の関係で配布できません

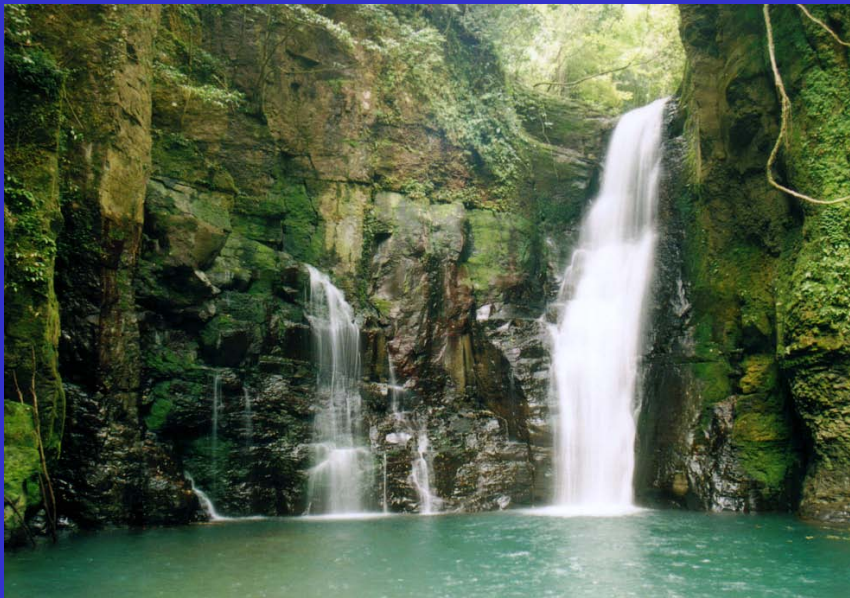
中央構造線や仏像構造線は北東から南西向きに走りますが、九州南部で 30° 屈曲し南北方向に立っています。それに応じてフィリピン海プレートがユーラシアプレートに潜り込む境界も屈曲しており、その屈曲部付近に九州・パラオ海嶺が潜り込んでいることを示す図

人吉盆地周辺の地質の説明図

当日は書物に掲載された図を改変して提示しましたが、著作権の関係で配布できません

人吉盆地は仏像構造線より以南(すなわち四万十累帯北帯)にある。それは北東から南西向きに走るが、人吉盆地の北東で二つに分かれその南部は屈曲し大隅半島へと伸びていく。その隙間に出来たのが人吉盆地である。そのままでは南西方向に大きく開いた低地となるはずだが、人吉盆地の南側には肥薩火山群と加久藤カルデラの外輪山が噴出し、今の人吉盆地ができあがっている。

鍵掛けの滝



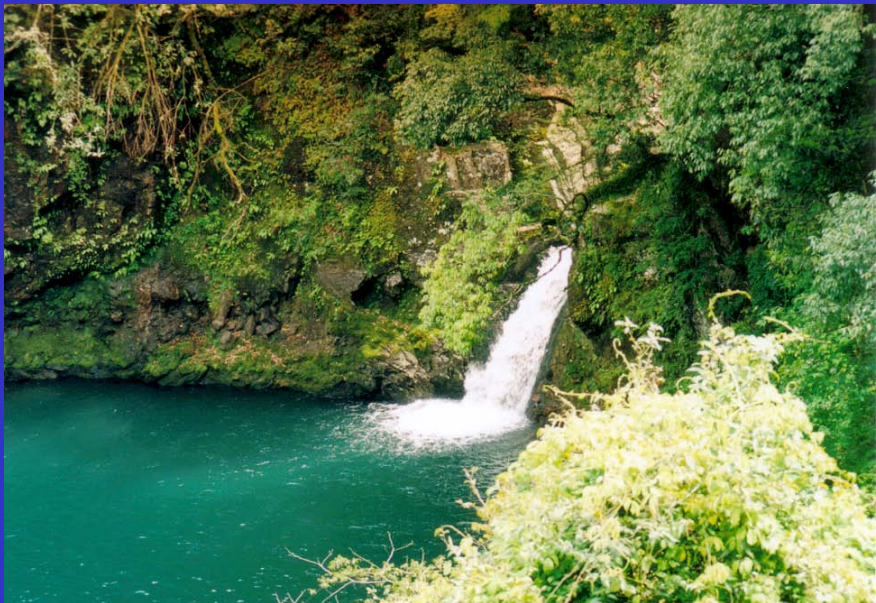
肥薩火山群の滝、人吉市

布の滝



肥薩火山群の滝、人吉市

大塚のとどろの滝



肥薩火山群の滝、人吉市

水俣大滝



大滝溶岩にかかる滝、熊本県水俣市

箱滝



大滝溶岩にかかる滝、熊本県水俣市

おしどりの滝



肥薩火山群の滝、鹿児島県大口市十曾溪谷

鹿目の滝



安山岩の柱状節理、熊本県人吉市

鹿目の滝雌滝



安山岩の柱状節理、熊本県人吉市

まとめにかえて

鹿目の滝の成因と形態の関係について

1. 鹿目の滝は安山岩の柱状節理を有する直瀑である(雄滝)。
2. 比較的大きな円形の滝壺を有し、下流側は上流よりも幅広く両岸が切り立った壁となっている。
3. これらの形状は巨大カルデラ周辺部の滝と一致するが、成因的には平坦地にできる滝の一般型である。
4. このような平坦地型が出来たのは肥薩火山群が山体を持たない溶岩流出噴火を起こしたことと関係するであろう。
5. 雄滝は直瀑、雌滝は溪流瀑(斜瀑)である。その違いを説明する一つの可能性としては、雌滝では水量が少なく崩落した岩屑すら洗い流せず滝壺も小規模である。そのため滝足部が浸食されず直瀑にならなかったと考えられる。